

2019年 1月23日

岩倉市議会

議長 黒川 武 様



日本共産党岩倉市議団

団長 榊谷 規子

「地方議会研修会 i n 岩倉」研修報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日 2019年 1月17日 (木)

2 研修先 岩倉市生涯学習センター

3 出席人数及び氏名

2名	榊谷 規子	木村 冬樹
----	-------	-------

4 復命事項

別紙のとおり

「地方議会研修会 i n 岩倉」研修報告書

日 時／2019年 1月17日（木）午後1時～午後4時45分

場 所／岩倉市生涯学習センター

「議会改革第2ステージを考える 東海からチーム議会を目指して」をテーマに、ローカル・マニフェスト推進連盟東海の主催、早稲田大学マニフェスト研究所と岩倉市議会の共催で開催されたこの研修会には、地方議会議員や議会事務局職員など139人が参加した。日本共産党岩倉市議団は残念ながら、他の任務の関係で「議会パネルディスカッション」終了時、午後3時までの参加となった。以下、研修内容を報告する。

基調講演

「地方議会から地域を変え、地域から日本を変える」

北川正恭・早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問

国主導で行われている「地方創生」は、執行機関には「やらされ感」を感じるものとなっている。「地方創生」は、議会が実行すべきものである。議会が提案して、執行機関に実施させる形にしていかななくてはならない。

議会事務局ではなく、「議会局」とするところも出てきた。議会改革が進むと、議会と執行機関の関係も変わってくる。議会事務局の仕事も見直すべきで、どんどん増えてくる。

政務活動費は、金額ではなく、使い方（活用の質）が問題である。質の高い使い方をを行い、残さない。住民に必要性を認めさせていくことが重要である。

印象に残った講演内容のみ記述したが、議会改革における議会事務局の役割の重要性は大いに共感できた。議会事務局の機能の飛躍的な向上が必要となってくる。議会事務局職員に

こそ、聴いてもらいたい内容であった。

先進事例報告

「議会と市民のコミュニケーション『きてちょ〜議会報告会』の取り組み」

黒川 武・岩倉市議会議長

岩倉市議会のふれあいトーク、議会サポーター、委員会代表質問について報告されたが、内容は省略する。

議会パネルディスカッション

パネラー／黒川 武・岩倉市議会議長、ビアンキ・アンソニー・犬山市議会議長、

北川正恭・早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問

コーディネーター／川上文浩・可児市議会前議長、ローカル・マニフェスト推進連盟共同代表

犬山市議会のフリースピーチ制度が紹介された。市民が議場で自分の意見を述べる制度で、出された意見を全員協議会で検討して、必要なものは執行機関に要望している。フリースピーチの傍聴は、議会傍聴とは異なり満員となっている。議場の市民開放も重要なテーマである。

議会報告会の内容についての議論では、司会は第三者にお願いする、決算報告はつまらないから現状の課題をテーマとすべき、決まりきった形ではやらず常に変化を心がける、などの意見が出された。また、議員個人や会派ではなく、議会としてPDCAを意識した4年間の課題を持つことが強調された。議会は、市民が行政に要望する窓口になるべきで、高校生議会やいどばた会議的な議会報告会などを実施している議会もある。可児市議会の高校生への取組で、18歳の投票率が90%以上という驚異的な報告もあった。

議会改革の第2ステージとして、どのようなことを考えているかというテーマでは、行政評価から政策提言を行い、決算から予算への政策形成サイクルを回していく重要性が語られ

た。行政評価では、事務事業評価よりも施策評価から始めていく議会が増えている。総合計画への議会の関与が執行機関を動かしていくことが強調された。

また、議会の独立性の向上という点で議会事務局の強化、若い市民と議会との連携、予算提案権など議会の権限の拡大、議会サポーターの活用を政策サポーターまで引き上げていくこと、委員会代表質問のステップアップ、議員間討議の内容の向上などが今後のテーマとなると議論は締めくくられた。

制度的なものをステップアップしていくこととともに、議員個人の質（質疑・質問・議員間討議の内容）を飛躍させていかなければならないと強く感じる内容であった。

以 上